

食事のマナー：香り



(<https://frame-illustr.com>)

日本での食事のマナーについては様々なガイドブックやサイトで取り上げられています。また、日本語学習の教科書でも取り上げられる話題です。お箸の使い方や、お茶碗の持ち方、食事中的会話の仕方など、様々なことが詳しく書かれています。しかし、どのガイドブックやサイトでもほとんど取り上げられていない、大切なマナーがあります。それは、「香水のマナー」です。

日本では、香水を付けないほうが多い場面が多いです。例えば、病院、お葬式、職場などです。特に、食事の席や飲食店に強い香水をつけて行くことはマナー違反にあたります。それは香水が料理の味を邪魔するからです。料理は味覚だけで楽しむものではありません。嗅覚や視覚も使って楽しむものなのです。そのため、飲食店では強い香水や柔軟剤の強い香りが嫌われることがあります。しかし、そのことがガイドブックにはほとんど書かれていません。

以前、こんなニュースがありました。ある寿司屋に外国の旅行者が食事をしに行きましたが、その旅行者は強い香水をつけていたため、店に入れてもらうことができませんでした。その旅行者は外国人だから入れてもらえなかったと思ったそうですが、実は強い香水が原因だったのです。強い香りがすると人は味がわからなくなってしまうのです。特に、寿司は素材の味を最も大切にするもので、素材の味を邪魔するものは嫌われるのです。

最近は多くの店で、「香水を付けている方の入店をお断りします」と店の入口やホームページに注意書きする店も多くなりました。素材の味を大切にする寿司屋や蕎麦屋だけでなく、ラーメン屋やアトリエでもそんな注意書きがあります。アトリエでは食事はしませんが、強い香水は他の人に頭痛や吐き気を起こさせたりするからです。カフェやお茶専門店でもそのような注意書きがよく見られます。コーヒーやお茶の香りを楽しむ目的でカフェやお茶専門店を訪れる人も多いためです。

あるサイトによると、中東の国々での香水の年間平均消費量は3~5リットルだそうです。一方、日本では香水をよく使う人で年間100mlとされています。また、日本の香水の市場規模はフランスの1/3だそうです。日本にはフランスの2倍の人口がいます。その日本で市場規模がフランスの1/3なのです。このデータからも日本人は香水をあまりつけないことがわかります。

もし日本に行く機会があったら、ぜひ、このことを思い出してください。そして、いろいろな食べ物を楽しんでください。

(1015 字)

(2024.6 Written by Mami TANAKA)



この作品はクリエイティブ・コモンズ 表示 - 非営利 - 継承 4.0 国際 ライセンスの下に提供されています。この作品を利用する場合は、「たどくのひろば」を出典として示してください。

例) 出典: 「たどくのひろば」(<https://tadoku.info>)

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 4.0 International License. When you use this work, please indicate the source as in the example above.